

令和3年度(2021年度)授業計画				目 標	既習の数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの内容の発展的な内容の理解を深める。 難関国立大学入試問題解決能力の育成を主眼とする。	教科書	
講座名	数学演習	科目名	数学Ⅰ			副教材	メジアン数学演習ⅠⅡAB チャート式基礎からの数学Ⅰ+A (数研出版) チャート式基礎からの数学Ⅱ+B (数研出版)
単位数	2単位	区 分	自由選択				
年 次	3年次	形 態	選択				
担当者名	① 高橋 ② 廣田						

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>		
授業内容	導関数、接線	積分の計算	夏季休業期間	ベクトルの基本	種々の数列	冬季休業期間	入試問題演習
	関数の増減・極値	定積分で表された関数	実践問題演習	ベクトルと内積	漸化式と数列		個別指導
	最大・最小	面積(1)		ベクトルと平面図計	数学的帰納法		
	方程式・不等式への応用	面積(2)		ベクトルと平面図敬字(2)	数列の応用		
第一定期考査		第二定期考査		ベクトルと空間図形	第四定期考査		
定期考査までの授業数	時間	時間		時間	時間		時間

実力テスト 実技テスト 課題テスト	1学期課題テスト 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲
	課題テスト 1年生 4月10日 2年生 4月10日 3年生 4月10日	1,2年生 7月6日 3年生 4月24日 5月24, 25日

2学期課題テスト 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲

3学期課題テスト 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲

評価の観点 評価方法	①関心を持って取り組んでいるか。 ②数学的な見方・考え方が身に付いたか。 ③物事を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身に付け、問題を手ぎわよく解決することができるか。 ④数学における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身に付けているか。 定期考査、小テスト、レポート等提出物、出欠席の状況、授業態度等により評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業中 問題集、参考書を利用した講義と演習を行う。入試問題を解ける力をつける。 ②家庭学習 授業の復習を中心にして、問題集や参考書の類題をコツコツ解いていく日々の家庭学習が必要。 後期の後半は入試問題演習を中心に学習する。
-------------	--

大学受験や 発展的な内容との関連	文系難関国立大学等を志望する場合には必ず大学入試科目になっている。問題を事前に必ず自分で考え、授業で確認して、復習する。この繰り返し実力向上の秘訣です。
---------------------	--

令和3年度(2021年度)授業計画				目 標	極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図る。 既習の数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bの内容の発展的な内容の理解を深める。 理系大学入試問題解決能力の育成を主眼とする。	教科書	改訂版数学Ⅲ（数研出版）
講座名	数学Ⅲ	科目名	数学Ⅲ			副教材	改訂版サクシード数学Ⅲ（数研出版） 改訂版チャート式基礎からの数学Ⅲ（数研出版） 練習ドリル数学Ⅲ（標準編）（数研出版）
単位数	6単位	区 分	自由選択				
年 次	3年次	形 態	選択				
担当者名	① 島野 ② 森 ③ 高橋 ④伊藤						

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>		
授業内容	関数の極限	接線の方程式と平均値の定理	夏季休業期間	不定積分、置換積分法・部分積分法	数学ⅠⅡAⅢ演習	冬季休業期間	数学ⅠⅡAⅢ演習
	指数関数・対数関数・三角関数と極限	関数の増減		いろいろな積分			個別指導
	関数の連続性・連続関数の性質	グラフの凹凸		定積分、定積分と微分、区分求積法			
	微分可能と連続	第2次導関数と極大・極小		面積			
	導関数、合成関数と逆関数の微分法	速度・加速度		いろいろな確率の計算図形の面積、体積			
	三角関数・指数関数・対数関数の微分法	関数の近似式		(発展) 曲線の長さ 速度と道のり			
	高次導関数	第二定期考査		(発展) 微分方程式			
	第一定期考査			第三定期考査			
定期考査までの授業数	時間	時間		時間	時間		時間

実力テスト 実技テスト 課題テスト	1学期課題テスト 実施予定日・範囲		1学期実力テスト 実施予定日・範囲	
	課題テスト 1年生 4月10日 2年生 4月10日 3年生 4月10日		1,2年生 7月6日 3年生 4月24日 5月24, 25日	数学ⅠA全範囲 数学Ⅱ 数列の極限 ベクトル 関数の極限

2学期課題テスト 実施予定日・範囲		2学期実力テスト 実施予定日・範囲	
課題テスト 1年生 8月26日 2年生 8月26日 3年生 8月26日		1,2年生 9月13日 10月30日 3年生 10月5日 10月30日	数学ⅠA全範囲 数学ⅡB全範囲 数学Ⅲ全範囲

3学期課題テスト 実施予定日・範囲		3学期実力テスト 実施予定日・範囲	
課題テスト 1年生 1月8日 2年生 1月8日		1,2年生 1月17日 1月18日	

評価の観点 評価方法	①関心を持って取り組んでいるか。 ②数学的な見方・考え方が身に付いたか。 ③物事を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身に付け、問題を手ぎわよく解決することができるか。 ④数学における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身に付けているか。 定期考査、小テスト、レポート等提出物、出欠席の状況、授業態度等により評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業中 教科書の他、問題集、参考書を利用した講義と演習を行う。 ②家庭学習 授業の復習を中心にして、問題集や参考書の類題をコツコツ解いていく日々の家庭学習が必要。
-------------	---

大学受験や 発展的な内容との関連	医学・工学部・理学部等と志望する場合には必ず大学入試科目になっている。
---------------------	-------------------------------------

令和2年度(2020年度)授業計画				目 標	基本的な概念や原理・法則の理解を深め事象を数学的に考察し処理する能力を高める。 2年次で学習した数学Ⅱ・Ⅲの基礎知識の確認をする。 共通テストに対応した応用力をつけ、得点力アップを図る。	教科書	高等学校 数学Ⅱ 改訂版 (数研出版)
講座名	共通テストⅡB演習	科目名	数学Ⅱ			副教材	ニュースタンダード数学演習ⅠA+ⅡB (数研出版)
単位数	2単位	区 分	自由選択				
年 次	3年次	形 態	選択				
担当者名	① 赤石 ② 赤石 ③ 堀内						

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>		
授業内容	曲線と直線	導関数と接線	夏季休業期間	等差・等比数列 種々の数列	複素数と2次方程式の理論 因数定理 高次方程式	冬季休業期間	共通テスト模試演習
	軌跡と領域	関数の値の変化	実践問題演習	漸化式 数列の応用 式の訂算 二項定理 恒等式 不等式	ベクトル ベクトルと平面図形 ベクトルと空間図形		個別指導
	三角関数(1)	微分法の応用					
	三角関数(2)	不定積分・定積分、定積分で表された関数					
	指数・対数関数(1)	面積					
	指数・対数関数(2)						
	第一定期考査	第二定期考査		第三定期考査	第四定期考査		
定期考査までの授業数	時間	時間		時間	時間		時間

実力テスト 実技テスト 課題テスト	1学期課題テスト 実施予定日・範囲		1学期実力テスト 実施予定日・範囲	
			共通テスト 4/21, 4/23	数学ⅡⅢ入試基礎 数学ⅡⅢ入試標準
		記述テスト 5/21, 22		

2学期課題テスト 実施予定日・範囲		2学期実力テスト 実施予定日・範囲	
		記述テスト 8/8 8/27, 28 10/15, 16 10/24	数学ⅡⅢ入試基礎 数学ⅡⅢ入試標準
		マークテスト 9/17, 18 11/1, 2	
		共通テスト 11/26, 27	

3学期課題テスト 実施予定日・範囲		3学期実力テスト 実施予定日・範囲	

評価の観点 評価方法	①関心を持って取り組んでいるか。 ②数学的な見方・考え方が身に付いたか。 ③物事を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身に付け、問題を手ぎわよく解決することができるか。 ④数学における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身に付けているか。 定期考査、小テスト、レポート等提出物、出欠席の状況、授業態度等により評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業中 教科書を復習して、問題集、参考書を主とした講義と演習を行う。 ②家庭学習 授業の復習を中心にして、問題集や参考書の類題をコツコツ解いていく日々の家庭学習が必要。
-------------	--

大学受験や 発展的な内容との関連	数学ⅡⅢの内容の定着を図り、共通テストでの得点力アップを目指す。
---------------------	----------------------------------

令和3年度(2021年度)授業計画				目 標	基本的な概念や原理・法則の理解を深め事象を数学的に考察し処理する能力を高める。 数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。 既習の数学Ⅰ・Ⅱの内容を総復習し、共通テストでの得点力アップをはかる。	教科書	ニュースタンダード数学演習ⅠA+ⅡB(数研出版)
講座名	共通テストⅠA演習	科目名	数学Ⅰ			副教材	
単位数	2単位	区 分	自由選択				
年 次	3年次	形 態	選択				
担当者名				石村和生、伊東さや香、森 賢			

学校行事	第1学期	<第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期	木もれ陽祭	<第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期	
授業内容	式の計算		2次関数の種々の問題	夏季休業期間	組合せ		数Ⅰ・Ⅱの総合問題	冬季休業期間	共通テスト演習
	1次不等式		三角比と図形		確率		共通テスト演習		
	集合と命題		図形の計量		図形の性質				
	2次関数		データの代表値と散らばり		整数の性質				
	2次関数の最大・最小		データの相関						
	2次不等式と2次方程式		場合の数・順列						
	第一定期考査		第二定期考査		第三定期考査		第四定期考査		
定期考査までの授業数	8 時間		10 時間		8~14 時間		8~10 時間		6 時間

実力テスト 実技テスト 課題テスト	1学期課題テスト 実施予定日・範囲		1学期実力テスト 実施予定日・範囲	
			3年生 4月21,23日 5月21,22日	数学ⅠA小問 数学ⅠA応用

2学期課題テスト 実施予定日・範囲		2学期実力テスト 実施予定日・範囲	
		3年生 8月27,28日 9月17,18日 10月15,16日 11月1,2日 11月26,27日	数学ⅠA小問 数学ⅠA応用

3学期課題テスト 実施予定日・範囲		3学期実力テスト 実施予定日・範囲	

評価の観点 評価方法	①関心を持って取り組んでいるか。 ②数学的な見方・考え方が身に付いたか。 ③物事を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身に付け、問題を手ぎわよく解決することができるか。 ④数学における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身に付けているか。 定期考査、小テスト、レポート等提出物、出欠席の状況、授業態度等により評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業中 教科書の他、問題集、参考書を利用した講義と演習を行う。 ②家庭学習 授業の復習を中心にして、問題集や参考書の類題をコツコツ解いていく日々の家庭学習が必要。
-------------	---

大学受験や 発展的な内容との関連	数学ⅠAの内容の定着を図り、共通テストでの得点力アップを目指す。
---------------------	----------------------------------

令和3年度(2021年度)授業計画				目 標	ベクトル、数列における算法について理解させる。 基礎的な知識の習得と技術の習熟を図る。 事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばす。 応用力を身につける。	教科書	高等学校 数学B 改訂版 (数研出版)
講座名	数学B	科目名	数学B			副教材	改訂版サクシード数学Ⅱ+B (数研出版) 改訂版チャート式基礎からの数学Ⅱ+B (数研出版)
単位数	2単位	区 分	学校必履修				
年 次	2年次	形 態	クラス単位				
担当者名	1組：堀内／2組：堀内／3組：廣田／4組：伊東さ／5組：加賀山／6組：伊東さ／7組：加賀山／8組：廣田						

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>		
授業内容	数列	階差数列	夏季休業期間	様々な漸化式	位置ベクトル 位置ベクトルと図形	冬季休業期間	空間のベクトルと位置ベクトル
	等差数列とその和	いろいろな数列の和	総合演習	ベクトル	ベクトル方程式	総合演習	空間のベクトルと図形
	等比数列とその和	漸化式と数列		ベクトルの成分	空間の座標 空間のベクトル		座標空間における図形
	和の記号Σ	数学的帰納法		ベクトルの内積	空間のベクトルの成分 内積		問題演習
	問題演習	問題演習		問題演習	問題演習		
	第1定期考査	第2定期考査		第3定期考査	第4定期考査		第5定期考査
定期考査までの授業数	時間	時間		時間	時間		時間

実力テスト 実技テスト 課題テスト				

	夏季課題範囲		

	冬期課題範囲		

評価の観点 評価方法	①関心を持って取り組んでいるか。 ②数学的な見方・考え方が身に付いたか。 ③物事を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身に付け、問題を手ぎわよく解決することができるか。 ④数学における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身に付けているか。 定期考査、小テスト、レポート等提出物、出欠席の状況、授業態度等により評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業中 講義と演習を織り交ぜた形式で学習をすすめていく。教科書のほか、傍用問題集(サクシード)の問題も適宜取り上げて演習する。 ②家庭学習 予習においては、教科書の間や練習問題を解きながら、難しいところや疑問に思うところを自分で把握しておくことが大切である。復習においては、主に傍用問題集を中心とし、また参考書(チャート)の類題演習を通して確認しながら学習を進める。
-------------	---

大学受験や 発展的な内容との関連	センター試験の範囲となる。数学Ⅲ、数学Cへとつながる基本的な内容である。
---------------------	--------------------------------------

令和3年度(2021年度)授業計画				目 標	整式の除法、式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。	教科書	高等学校 数学Ⅱ 改訂版 (数研出版)
講座名	数学Ⅱ	科目名	数学Ⅱ			副教材	改訂版サクシード数学Ⅱ+B (数研出版) 改訂版チャート式基礎からの数学Ⅱ+B (数研出版)
単位数	4単位	区 分	学校必履修				
年 次	2年次	形 態	習熟度別授業				
担当者名	(12組：赤石・堀内・伊東) (34組：大久保・島野・廣田) (56組：島野・大久保・廣田) (78組：伊東・赤石・堀内)						

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>		
授業内容	直線上の点の座標と平面上の点	軌跡と方程式	夏季休業期間	三角関数の加法定理	極限值と微分係数	冬季休業期間	不定積分 定積分
	直線の方程式	不等式の表す領域	総合演習	加法定理の応用	導関数	総合演習	面積
	2直線の関係	一般角		三角関数の合成	接線の方程式		演習問題
	円の方程式	一般角の三角関数		三角関数の加法定理	関数の値の変化		
	円と直線の位置関係	三角関数の性質・グラフ		加法定理の応用	最大値・最小値		
		三角方程式と三角不等式		三角関数の合成	方程式・不等式への応用		
	第一定期考査	第二定期考査		第三定期考査	第四定期考査		第五定期考査
定期考査までの授業数	時間	時間		時間	時間		時間

実力テスト 実技テスト 課題テスト	課題テスト 4月10日	実力テスト 7月10日		

2学期課題テスト			
夏期課題範囲	実力テスト 8月27日 11月1日2日		

3学期課題テスト			
冬期課題範囲	実力テスト 1月15日 17日		

評価の観点 評価方法	①関心を持って取り組んでいるか。 ②数学的な見方・考え方が身に付いたか。 ③物事を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身に付け、問題を手ぎわよく解決することができるか。 ④数学における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身に付けているか。 定期考査、小テスト、レポート等提出物、出欠席の状況、授業態度等により評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業中 教科書の他、問題集、参考書を利用した講義と演習を行う。 ②家庭学習 予習と復習の他、問題集、参考書の問題演習を定期的に課題として出す。
-------------	---

大学受験や 発展的な内容との関連	センター試験の範囲となる。数学Ⅲへとつながる基本的な内容である。
---------------------	----------------------------------

令和2年度(2020年度)授業計画				目 標	場合の数と確率、図形の性質、整数の性質について理解する。 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を育てる。 数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。	教科書	数学A(数研出版)	
講座名	数学A	科目名	数学A			副教材	新課程 サクシード数学I+A(数研出版) 新課程チャート式基礎からの数学I+A(数研出版)	
単位数	2単位	区 分	学校必履修					
年 次	1年次	形 態	クラス単位					
担当者名	1組	2組	3組	4組	5組	6組	7組	8組

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>	
授業内容	数学I・A共通学習項目 集合 第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 1 集合の要素の個数 3つの集合の和集合の要素の個数 2 場合の数 3 順列 4 円順列・重複順列 第一定期考査	5 組合せ 重複を許して取る組合せ 第2節 確率 6 事象と確率 7 確率の基本性質 8 独立な試行の確率 9 反復試行の確率 第二定期考査	夏季休業期間 第二定期考査までの確認 演習課題 夏季講習	10 条件付き確率 原因の確率 第3章 整数の性質 第1節 約数と倍数 1 約数と倍数 2 最大公約数と最小公倍数 3 整数の割り算と商および余り 自然数の積と素因数の個数 第三定期考査	割り算の余りの性質 一次不定方程式 n進法 第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2章 図形の性質 第1節 平面図形 第2章 図形の性質 第2節 空間図形 第四定期考査	冬季休業期間 第4定期考査までの確認 演習課題 冬季講習 課題研究1 課題研究2 発展学習 発展学習 第五定期考査
	定期考査までの授業数	時間	時間	時間	時間	時間

実力テスト 実技テスト 課題テスト	1学期課題テスト 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲
	課題テスト 1年生 4月9日 2年生 4月9日 3年生 4月9日	1,2年生 7月6日 3年生 4月24日 5月24, 25日 順列・組合せ(選) 平面図形(選)

2学期課題テスト 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲

3学期課題テスト 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲

評価の観点 評価方法	①関心を持って取り組んでいるか。 ②数学的な見方・考え方が身に付いたか。 ③物事を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身に付け、問題を手ぎわよく解決することができるか。 ④数学における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身に付けているか。 定期考査、小テスト、レポート等提出物、出欠席の状況、授業態度等により評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業中 講義と演習を織り交ぜた形式で学習をすすめていく。教科書のほか、傍用問題集(サクシード)や参考書(青チャート)の問題も適宜取り上げて演習する。 ②家庭学習 予習においては、教科書を熟読し問や練習問題を解きながら、難しいところや疑問に思うところを自分で把握しておくことが大切である。復習においては、傍用問題集や参考書の類題演習を通して確認しながら学習を進める。
-------------	--

大学受験や 発展的な内容との関連	数学Iと同様、数学II、数学B、数学C、数学IIIへとつながる基礎的な内容である。一般には選択学習をする領域であるが、本校では可能な限り全範囲を扱う。
---------------------	---

令和3年度(2021年度)授業計画				目 標	方程式と不等式、二次関数、図形と計量及びデータの分析について理解させる。 中学校の数学を発展・充実させ、数学の基礎となる事項について学ぶ。 身近な事象との関連を意識しながら、知識の習得と技能の習熟を図る。	教科書		
講座名	数学 I	科目名	数学 I			副教材	新課程 サクシード数学 I + A (数研出版) 新課程チャート式基礎からの数学 I + A (数研出版)	
単位数	3単位	区 分	必履修					
年 次	1年次	形 態	習熟度別授業					
担当者名	12組：加賀山、伊藤、石村		34組：加賀山、伊藤、前原		56組：石村、森、前原		78組：石村、森、前原	

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>		
授業内容	第1章 数と式 第1節 式の計算 1 整式	10 命題と証明	夏季休業期間	4 2次関数の決定	3 三角比の拡張	冬季休業期間	第4章 データの分析
	2 整式の加法と減法および乗法	第2章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	第二定期考査までの確認	第2節 2次方程式と2次不等式 5 2次方程式	第2節 三角形への応用 4 正弦定理	第4定期考査までの確認	課題研究1
授業内容	3 因数分解、3次式の展開と因数分解	1 関数とグラフ	演習課題	6 グラフと2次方程式 放物線と直線の共有点	5 余弦定理	演習課題	課題研究2
	第2節 実数 4 実数 5 混合を含む式の計算、2重根号	2 2次関数のグラフ	夏季講習	7 グラフと2次不等式	6 正弦定理と余弦定理の応用	冬季講習	発展学習
	第3節 一次不等式 6 一次不等式	3 2次関数の最大と最小		第3章 図形の計量 第1節 三角比 1 三角比	7 三角形の面積 ヘロンの公式		
	7 一次不等式の利用 絶対値と場合分け			2 三角比の相互関係			
	第1章 第4節 9 命題と条件			第三定期考査	第四定期考査		第五定期考査
定期考査までの授業数	時間	時間		時間	時間		時間

実力テスト 実技テスト 課題テスト	1学期課題テスト 実施予定日・範囲	1学期実力テスト 実施予定日・範囲
	課題テスト 1年生 4月9日 2年生 4月9日 3年生 4月9日	数と式(必) 方程式と不等式(必) 2次関数最大最小まで

2学期課題テスト 実施予定日・範囲	2学期実力テスト 実施予定日・範囲
	夏季休業期間中課題 課題テスト 1年生 8月26日 2年生 8月26日 3年生 8月26日

3学期課題テスト 実施予定日・範囲	3学期実力テスト 実施予定日・範囲
	冬季休業期間中課題 課題テスト 1年生 1月11日 2年生 1月11日

評価の観点 評価方法	①関心を持って取り組んでいるか。 ②数学的な見方・考え方が身に付いたか。 ③物事を数学的に考察し、表現・処理する仕方や推論の方法を身に付け、問題を手ぎわよく解決することができるか。 ④数学における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、知識を身に付けているか。 定期考査、小テスト、レポート等提出物、出欠席の状況、授業態度等により評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業中 講義と演習を織り交ぜた形式で学習をすすめていく。教科書のほか、傍用問題集(サクシード)や参考書(青チャート)の問題も適宜取り上げて演習する。 ②家庭学習 予習においては、教科書を熟読し問や練習問題を解きながら、難しいところや疑問に思うところを自分で把握しておくことが大切である。復習においては、傍用問題集や参考書の類題演習を通して確認しながら学習を進める。
-------------	--

大学受験や 発展的な内容との 関連	数学Iで学習する式と計算、2次関数、2次方程式、2次不等式、三角比はどれも数学II、数学B、数学IIIへとつながる重要な内容であり、十分な練習量が必要である。
-------------------------	---